

ホタテガイ養殖管理情報

異常貝が多い場合は耳吊りに向きません

耳吊り作業については、以下の点に注意してください。

1 異常貝とは？

外套膜（通称、ヒモ）に傷ができて、そこから出血した血が固まったものが内面着色です。貝殻は外套膜で作られますが、外套膜に傷ができるとその部分で貝殻が作れなくなるため、欠刻になります。

いずれも異常貝の原因は**病気ではなく、“ケガ”**です（図1）。

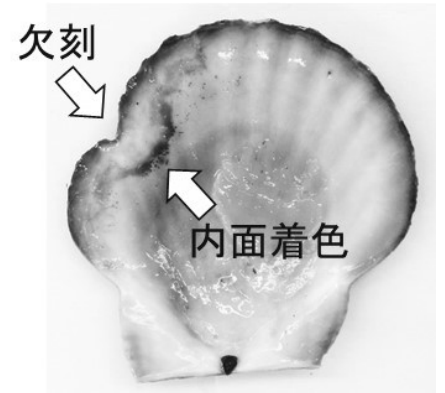


図1 異常貝

2 耳吊り作業の注意点

(1) 耳吊りする貝

ひどい欠刻貝が見られるネットから、正常に見える貝や軽い欠刻貝を選んで耳吊りしても、3～4割がへい死することが分かっています（図2）。

これは外套膜（ヒモ）に、見た目では確認できない傷を負っている貝（通称：異常貝予備群）があるためと考えられます。

異常貝が5%以上ある場合は耳吊りに向かないことから、見た目の欠刻だけでなく、内面着色も調べて、耳吊りするかどうかを判断しましょう。貝が小さいと穴を開ける時に外套膜（ヒモ）を傷つけやすいことから、成貝向けの場合は特に殻長6cm以上の貝を用いるようにしましょう。

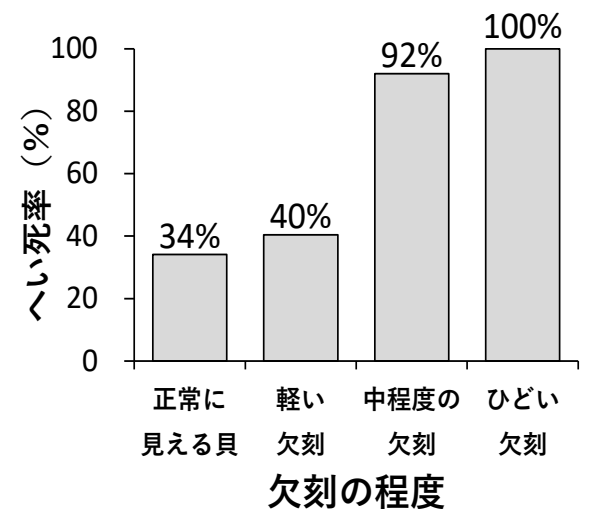


図2 欠刻の程度による耳吊り後のへい死率（3月に耳吊り、7月に測定）

(2) 穴を開ける位置

外套膜（ヒモ）を傷つけないように穴を開けましょう。

穴の位置は図3のとおりで、○の1枚開けが最適です。2枚開けの場合は△に開けるようにし、▲や×は異常貝になりやすく、成長不良になるので止めましょう。

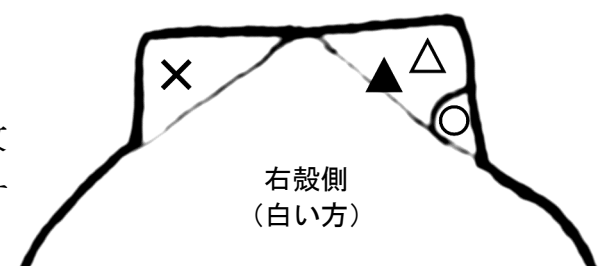


図3 穴を開ける位置

(3) その他の注意点

- ① 時期が遅くなると異常貝や死貝が多くなるので、耳吊り作業は4月いっぱいで終わるようにしましょう。
- ② 貝が凍結する危険性があるので、気温が氷点下の場合は、作業を見合わせるようにしましょう。
- ③ ホタテガイは乾燥に弱いので、作業場では手早く作業を行うようにし、付着物除去を行う際も空気中に露出している時間を短くするようにしましょう。
- ④ 耳吊り後の貝はかみ合わせや餌不足で活力が低下するので、水槽や船べりに長く置かないようにしましょう。
- ⑤ ホタテガイは真水に弱いので、斜路や船べりに貝を置く場合は、漁港内の排雪や河川水に注意しましょう。

